

電装機器製造のワイテ

ックス(桐生市堤町、安

俊典社長)は、ドライブ

レコーダー機能が付いた

衝突警報装置「XLAS

1707」を開発した。

後付けできる安全運転機

器として高齢者や若者を

中心に販路拡大を狙う。

専門知識を持たない人

でも簡単に設置できるの

が特長。本体を両面テー

プでフロントガラスに取り

り付け、シガーライター

ソケットに電源を接続し

て使う。

前面のカメラで進行方

向を録画する。撮影した

障害物や歩行者、前方車

両との車間距離などを解

後付け衝突警報装置



開発した衝突警報装置をPRする安社長

析し、危険を察知すると

警告音を発する。走行車

線を逸脱したことを知ら

せる機能もあり、事故防

止につなげる。

装置の大きさは縦6・

4センチ、横11・5センチ、奥行

き3・6センチ。録画解像度

は200万画素で、3・

5インチの液晶モニターを搭

載する。

11月発売予定で、価格

は4万5千円を想定。初

年度の販売目標は3千台

としており、カーディ

ラーを中心に取扱店舗を

増やす。

安社長(69)は「歩行者

を感知する機能はドライ

ブレコーダーでは難しい

技術」とアピール。高齢

ドライバーの事故防止に

つなげてほしいとしてい

る。

安全運転支援
ワイテックス開発